

\*\*\*\*\*目次\*\*\*\*\*

|    |               |        |
|----|---------------|--------|
| P1 | 今号の TOPICS    | 藤原 泰子  |
| P2 | 仲間たちの近況報告 (1) |        |
|    | 1 班           | 後藤 銃吾  |
|    | 2 班           | 大原 徹   |
| P3 | 仲間たちの近況報告 (2) |        |
|    | 3 班           | 小畑 孝二  |
|    | 4 班           | 松川 淑子  |
| P4 | 専任幹事ご挨拶       | 玉尾 洋一  |
|    | リレー随筆         | 池田 清   |
| P5 | 私の玉手箱         | 山上 恵子  |
| P6 | 絵画コーナー        | 玉尾 ひとみ |
|    |               | 藤川 宗昭  |
| P7 | 写真コーナー        | 今本 芙佐子 |
| P8 | 樹形ウォッチング      | 遊上 真一  |
| P9 | 俳句・           | 山上 恵子  |
|    | 川柳コーナー        |        |

## ◇自然と文化だより◇

ロシアとウクライナの戦争が勃発した。コロナで世界は疲弊しているのに、更なる憂いが増えた。ロシアが自国の勢力圏を保持するために民主国家を武力で侵略するという愚行にでたが、新聞では「東西冷戦終結後の世界秩序を破壊する歴史的な暴挙である」と訴えている。今の世の中でこんなことが起こるとは考えても見なかった。米国・西欧諸国の動向が気になる。全面戦争になれば最終兵器が使用されるかも知れないとの憶測も排除できない。

対岸の火事ではなく、ガソリン不足から物価の高騰もあり、人ごとではない。

Y.T



## 副代表ご挨拶

副代表 藤原 泰子

今から十数年前に学生時代の友達に会ってお喋りしていると毎日が楽しくて仕方がないという。シニア自然大学校に行って良い仲間と出会い生活が充実しているというのを聞いて、私も退職したらそこに行こうとその時決めた。ということで6年前迷わず体験に参加して申し込んだ。思った通り楽しく2年が過ぎ“自然と文化科”に入科してみると、先輩方の凄さに圧倒され1年続くかどうか…と思いながら気がつくと4年が過ぎていました。

人生長い間生きていくと色々な事があり、第一の試練は27年前の阪神淡路大震災。神戸市東灘区の自宅は半壊、電気はすぐに来たが、3か月間水道が止まり交通網もなかなか復旧せず半年間以上不自由な生活に耐えた。そして今回コロナウイルスとの闘い。「緊急事態宣言」「まん延防止等重点措置」が何度も出され活動中止になる中、1年前万博ネイチャー担当を引き受ける事になりました。ところが副代表という大役までついていました。コロナ禍の為、聞いた事のないzoomで運営委員会を体験をしたりしながらもコロナ禍も2年目となると、自粛生活にも少し慣れてきました。幸い六甲山の麓に住んでいるので、山歩きには不自由せず、6月にはササユリを見に行ったりとのんびり過ごしていました。

万博ネイチャーは開催されるのだろうか？こんな状態だから多分中止だろうと思っていたら、7月に入って開催されると発表され、それから慌てて近所を歩き回り色々な実を集めたり、8月に入って前回の万博ネイチャーの材料を預かって頂いている方々にメールでやり取りし始め、何からすればいいのかと思案していたら9月に中止決定となり、結局この1年は何もしないまま過ぎてしまいました。

来年度、高等科が無くなるに当たって数回会議で話し合いがもたれ、自然と文化科の入科条件も見直される事になりました。ここ数年間、入科人数が減っていますが、来年度はどうなることかと心配です。又役員任期を2年とすることになり、組織体制の見直しもしていかなければなりません。

来年度もコロナウイルスと共生しながら新しい体制の中でこのまま素敵な仲間とともにできる限り楽しく過ごせたらと思います。そして微力ながらも自然と文化科のために貢献したいと思います。

万博ネイチャーが開催される折には、皆様ご協力の程よろしくお願い致します。

## 旅行と新型コロナ

## 1 班 後藤 銃吾

シニアの 3 大娯楽は旅行、TV、グルメだそうです。私も同じで、日頃は TV を見ながら次はどこへ旅立とうかなどと考えている。私にとって旅行の楽しみの一つは行先の風景を水彩画で描くことである。毎年 1~2 回海外旅行し、旅行先の風景画を年賀状に載せ、近況の報告としてきた。

一昨年の 4 月には地中海クルーズを予約していたが、突如コロナが発生し、クルーズを含め海外旅行はすべて夢と消えてしまった。

インバウンド旅行の中断で困っている人の助けになればと、コロナの小康時をねらい海外旅行に替えて国内旅行に努めて行くことにした。当然政府の自宅待機その他の指示には従い、とくに go to キャンペーンや域内の旅行応援キャンペーンなどの時にはまとめて集中的に旅行した。一方申し込んだツアーが中止になったり、申し込み時は大丈夫と思っていたのが情勢悪化でキャンセルしたツアーは 10 件に及んだ。キャンセル料の負担もそれなりに発生していて、go to キャンペーンで得た利益を相殺している。

次にキャンセル料は免れぬと覚悟したが、かうじて助かった 2 件のキャンセル事情を紹介しよう。1 件は冒頭に述べた地中海クルーズである。海外渡航は実質的に禁止でもツアーの中止はなく、当方からキャンセルすればキャンセル料が発生する。船会社の運航中止決定とこちらのキャンセルの我慢比べとなった。旅行日が近づきキャンセル料の増額が迫ってきて、最早これまでと思ったときに運航中止の連絡が入り、何とかキャンセル料無しで納めることができたのである。

もう 1 件はごく最近のことである。昨年末はコロナも落ち着いてきたのでまた旅行を再開しようと今年 1 月下旬に宮古島ツアーをいれた。そしてまたオミクロン株による感染増が始まり、その後特に沖縄がひどくなり、その中でも宮古島が最悪という報道が入り、これは無理と観念しキャンセルを申し込んだら、なんとキャンセル料無しでキャンセルしてくれた。一人でも希望者があればツアーは決行しますと添乗員さんから聞いたことがあったので、これは想定外で有難かった。

そのうちにコロナも落ち着くだろうと思い 4 月にまたツアーの予約を入れている。風景画になる素晴らしい景色を求めて旅を続けていきます。

## 愛犬との思い出とひとりごと

## 2 班 大原 徹

愛犬マロンが逝った。真夏の暑い一日でした。14 歳の大往生ですが、それだけに中学生の頃から当たり前に日常生活をともにしてきた子供達にとっては、具体的な死に向き合う初めての経験になったようです。我が家全体がペットロスに包み込まれ暗い夏を過ごすことになってしまいました。今の温暖化が原因との声もありましたが、まさかそんなことはなく愛犬マロンも寿命の尽きる最期まで頑張っただろうなを言っていたと思います。

われわれ人間と心を響き合わせることでできる犬との生活は、はるか大昔から続いてきたと言われています。私たちのご先祖は 2 万年ほど前の氷河期の厳しい寒さの中、マンモスなどの狩猟を行うにあたって(ヒトの食べ残しにあずかりたい)オオカミと協働するようになったとのこと。その後の気温上昇で氷河が後退し、縄文海進が進んだ 7 千年ほど前に世界は温暖な時代を迎えました。今より数度も気温は高く、青森県三内丸山まで農耕村落が広がったユートピアのような時代。日本武尊も白い犬と共に描かれており、すでに犬もすっかり社会生活に溶け込んでいたようです。

このあとも小幅な寒冷化と温暖化が繰り返されてきました。寒冷化の進んだ時代には農作物の不作・飢饉から人の心はとげとげしくなり、動乱や戦争が起こりました。一方で、温暖化が進む時代は人の心も丸くなって、のんびりとした時代になります。花咲か爺さんや桃太郎をはじめ多くの昔話の中に、人に寄り添う犬の姿が登場してきました。

私が子供の頃は番犬として屋外で犬を飼うことが一般的でした。家の近くを歩いていて野良犬に危険を感じたことも多かったように思います。最近では野良犬を見かけなくなりましたが、この大きな原因は犬の室内飼いが一般的になったためだそうです。現代社会において、いよいよ愛犬は心を通わせ合う家族の一員になったのだと実感します。

今は温暖化に警鐘が鳴らされていますが、今後寒冷化してゆくという悪夢より、実りの多い温暖な気候が進んで愛犬とのんびりできる日常が続く方がはるかに望ましい未来だと思います。でもなかなか「まだいける、もう一度だけ犬を飼う」という決断ができません。「ペットロス、主人の時より号泣し」という笑えない景色が想像されるからです。いつまでも穏やかな日々が続きますように。



## 高等科 20 期 修学旅行

3 班 小畑 孝二

高等科最後の年に、専任講師として関わらせていただいた 1 年でした。コロナ関連で活動できない日もありましたが、後半は何とか活動することができました。

さて、今年の 2 月に修学旅行の企画がありました。2 泊 3 日で、奄美大島でした。この辺は寒いので、ゆっくりと暖かさを楽しめることを楽しみにしていました。しかし、コロナ感染拡大により現地受け入れが難しくなり断念することになりました。次の案は、1 泊 2 日で室戸岬と牧野植物園でした。この企画は、昨年のコロナ感染拡大で中止になった分です。高知県だったら感染者数も少ないので実施できるのではないかと少し期待していました。しかし、オミクロン株の感染急拡大により断念することになりました。最後の案は、日帰りの淡路島でした。2 月 15 日は、天候もよく実施することができました。縮小はされましたが、実施できて高等科 20 期生良かったです。

私は、高等科 18 期でした。そのときの修学旅行には、都合により不参加でした。今度こそ修学旅行に参加できるぞと思っていたのですが、また都合で不参加になりました。これで、高等科での修学旅行はなくなってしまいました。「行きたかったのになあ！」本当に残念な気持ちでいっぱいです。コロナの終息を願うばかりです。そこで、せめて室戸での写真を掲載することで修学旅行に参加したことにはしたいと思います。



2022 年 3 月 8 日高等科の最後の修了式です。  
これで終わりではありません！

＜専科の自然観察コースがスタートします！＞

2022 年度から、高等科は専科の自然観察コースとして生まれ変わります。本講座修了生を中心に過年度の修了生等にも参加していただき、新しい 1 ページを開くことになりました。今までの高等科の流れを引継ぎ、「楽しい」をキーワードにして活動したいと思います。新しい気持ちで頑張りますので、よろしくお願いします。

## キジョランは虫さんたちのゆりかご

4 班 松川 淑子

西国札所 4 番施福寺がある槇尾山は、隣の岩湧山や金剛山とは少し違う植相になっています。杉の植林斜面一帯に広がるルリミノキはこの辺りではここだけで、他にカギカズラやサツマイナモリの群生、自生種のイズミカンアオイ、そして山の中では至る所にキジョランが見られます。

そのキジョランにアサギマダラの幼虫が越冬していると聞き 12 月中頃に観察に行きました。確かにたくさんの幼虫がキジョランの葉 1 枚に 1 頭（蝶は匹ではなく頭と数えるそうです）います。葉裏に産み付けられた卵からかえり 1～3 齢目位までは、キジョランの毒、アルカロイドを避ける為にまず丸い穴をあけて切り目から白い毒を出し、内側から食べていくので丸い穴があいた葉をそっとめくると幼虫が見られます。可愛い～！



初めて見たときは僅か 1cm 位でしたが、今はもう倍以上に大きくなって、黒地に黄色と白の模様が目立ちます。まず

まず可愛い！

1 か月以上たち、幼虫の数も少なくなってきましたが、透明の蛹の抜け殻を発見、少なくとも昨年はここでアサギマダラが飛び立ったのではないのでしょうか。ワクワクします。

そして何度か通ううちに気が付きました。



キジョランは常緑で大きな葉です。冬は蒸散を防ぐ為に外側に巻いている葉が多いようです。

その巻きを覗

いてみると、クロバネヒトリの幼虫やコシロカネグモ（？）、蛾の幼虫の尺取虫、何かな、小さい黒い塊が動いています。

あと少しで春が来ます。

アサギマダラやその他の昆虫たちが飛ぶ季節です。その様子が見たくてせっせと通っています。

## 一緒にホームページ制作しませんか？

2班 玉尾 洋一

広報専任幹事になって、早や3年になろうとしている。この間、どんな事ができたのだろうか検証してみた。

- ・ホームページのデザインを一新。  
上のフレームに現在日時、毎月のイベントイラスト、コロナ信号 メインフレームの背景に毎月の花暦写真の切り替え。
- ・天気予報、乗換案内、花ごよみ(再)、全国、大阪府のコロナ感染状況のリンクボタンの設置。
- ・各委員会、同好会の更新。
- ・箕面公園の植物マップ。
- ・新しくアップしたか分かる new の点滅表示。
- ・自然と文化だよりの発行など。

手間をかけてやったと思っていても、振り返って見ると役に立っているのだろうか疑問視する。このサイトへの訪問件数が3年かかって12000回を超えたが、少ない！もっと魅力あるサイトを目指したい。

あるサイトにホームページ作成に関し、「魅力的」と「わかりやすい」のどちらを優先すればいいのか？との投稿があった。

「魅力的」とは訪問者が思っている以上に感動する、ビックリする、これが欲しかったんだと感じられる事。つまり作り手側の誘導で「楽しい情報を提供する」事を考えねばならない。難しい問題だ。

「わかりやすい」は、訪問者が求めている事柄がすぐに見つけられるサイト作りだ。これはまだ理解できる。

答えはどちらも必要と言うことらしい。

今、感じている問題点は、

- ・観察記録みたいに画素数が多い画像を開く時に長いものでは1分も時間がかかり、いらいらして諦める。時間短縮の改良。
- ・スマートフォン対応。スマートフォンでも見やすくする改良。
- ・リンクボタンの説明。これはすぐに改善できる。

まだまだやる事が多くある。時間をかけてやるつもりだが、気懸かりなのは一人でやっている事だ。私が出来なくなった時、自然と文化科のホームページが途端にストップする。その場合誰かしてくれるだろうが、空白ができる。そのリスクを回避するため、少なくともあと一人、一緒に出来る制作者を募集します。どなたか興味ある方はおられませんか！

## 氏神神社

1班 池田 清

近所に小さな神社がある。来歴を見ると中世時代からこの村にあった氏神神社のようだ。境内に罹災に関わる碑が二つある。一つは昭和13年7月の水害、いわゆる阪神大洪水の石碑。境内に流れてきた大石に彫ったものだろう。もう一つは平成7年1月の阪神・淡路大震災で倒壊した建屋・鳥居を修復した際の記念碑。



幾度か壊滅的な状態になったにも拘わらず落ち着きのある佇まいを維持できているのは、近隣の方々の手厚い信仰があるからに違いない。朝は出勤途中の人、昼はベビーカーを押すお母さん、夕方は買い物帰りの人が参拝に訪れる。

この神社が華やかな姿を見せるのは春と秋、それと5月の連休だ。春は満開のサクラ、秋はイチョウの黄葉とイロハモミジ、メグスリノキの真っ赤な紅葉。5月の連休は地庫から「だんじり」を曳き出し老若男女で賑わう「東灘だんじり」祭り。



私とこの神社との縁は本科の「私の草・木」。境内にあるイロハモミジを観察対象としたことだ。その時初めて雌花、雄花、翼果をつぶさに見た。以来、境内を観察するといろいろな樹木が有ることが分かった。



カラタネオガタマ、春にバナナの香りのする花を咲かせる。隣にカツラの木、冬芽や黄葉が美しい。雨後の落葉のキャラメル香も心地よい。その他、オガタマノキ、テンダイウヤク、モッコク、クロガネモチ、タブノキ、ネズミモチ、ツガ、ナミノキ、タラヨウ、ホルトノキ、モチノキ、シヤシャンボなど、多様。更に、ザクロ、ユズもあり、秋の大きな果実は失敬したい気持ちに駆られるが、後の祟りを恐れてそのままにしておく。

静かな境内で樹木の四季の様子を見ていると心が安らぐ。有志の方がいつも掃き清めておられるお陰もある。この2年間コロナ対応で鈴が取り払われ鈴を鳴らす光景が見られないのは寂しい。早くコロナ禍が退散し、以前の参拝の姿を取り戻したいものだ。そうしてこの氏神神社が地域の人々の安らぎの場として末永く存続することを願う。



## 私の玉手箱

## 1 班 山上 恵子

中からパッと白煙、で消えるどころかいつまでも鮮明に浮かぶ旅行。

歴史を語る私の日本全国への旅の基軸になった本『見ておこう』と時刻表と周遊券を手に。

1) 伊賀上野。先ず最初は日帰りの一人旅。

芭蕉の生地句碑を巡り、芭蕉の高弟服部土芳の庵、芭蕉の読んだ「蓼虫の音聞きに來よ草の庵」で有名な蓼虫庵をも訪ねた。

城の近く=旅に生き旅に死んだ芭蕉の孤独な姿を模ったという=「俳聖殿」にも足を延ばす。

2) 能登半島。清盛の義弟「平家にあらずんば人に非ず」と豪語した大納言平時忠が、壇之浦合戦に敗れ配流された地。

時忠の子時国以後、時国姓を名乗り上時国家、下時国家に分かれる。現代迄連綿と正統を受け継ぎ一大豪族として栄えたのは、奥地で有り、歴代善政を施し、落人である事を隠さず、むしろ義経や前田藩の姻族として政治的に利用した事だと言う。

江戸時代の建物は国の重要文化財だが、令和2年に60年間公開していた館を閉じた。

3) 岡山藩の開谷校は、現存する世界最古の庶民の為の公立学校。何十年も掛かりピカピカに磨き上げられた40畳の国宝の床に、孔子ゆかりの楷の樹の紅葉が映えていた情景は圧巻だった。

4) 三徳山三仏寺。三朝温泉のついでに行き、雪の為断られ出直す。不動堂で夫がリタイア。知り合ったご夫婦と登る。急斜面の木の根や鎖に掴まり、切り立つ岩を這い上がり馬の背、牛の背を越えて回るといきなり目一杯に広がる絶壁。窪みに小さな堂が僅かな岩を足掛かりに立つ。



投げ入れ堂

「あんな所に！」役の小角が予め作って投げたと言う伝説に素直に頷けた「投げ入れ堂」。三度目

訪れた時、山門を入ってすぐの所が土砂で崩れ木の根が露わになり難所が増えていた。

5) 香川県琴平町、金毘羅大芝居「金丸座」は天保7年建築、国の重要文化財。現存する本格的な歌舞伎劇場。江戸からの役者を見る為、大名が参勤交代の途中見に来ていたと言う。

当時富籤抽選場でもあったとか。訪れた頃は屋間映画館でその合間に中を見学出来た。桝席は4人、時代劇の場面が目の前に有る。

地下の奈落への階段は暗い。回り舞台の頑丈なカラクリ、太い心棒。直径7mの舞台を回した道具方の苦勞。せりあがりのカラクリも形をとどめていたらしい。

真っ暗闇の中、昔宝塚で、ジェンヌがセリから落ち、死んだ事件を思い出し早々に引き上げた。

昭和60年「四国こんぴら歌舞伎大芝居」を澤村藤十郎、故中村吉右衛門、故勘九郎が復活させ毎年4月開催し現在に至る。

6) 朝熊（あさま）山。内宮の東に聳える弘法大師建立の金剛証寺は頂上の近くに有る。「お伊勢参らば朝熊をかけよ、朝熊かけねば片参り」

=片参りとは譬え参宮してもこの山に登り寺に参らない事には完全なお伊勢参りをした事にならないという意味=それが気になっていた。

ケーブルカーが有ったが戦時中、鉄の供出をし、それ以後放置されている。バスで訪ねる事が出来た。広い大きな立派なお寺。余談だがひばりと裕次郎の大きな卒塔婆が有った。

7) 北条の石仏。本に記載された42ヶ所の内の私の最終目的地。やっと来れた！

加古川線、粟生（あお）から北条へ1時間。

1両きりのジーゼルカーは冬おでん列車になる。

『親がみたけりゃ、北条の西の、五百羅漢の堂にござれ』古い民謡の文句がその人達の思いを伝える。苦しい時、寂しい時会いにきたのだろうか。当時で428体、見ているだけで心が和んだ。本の表紙の石仏は野中に立っているが、目の前のそれは区画整理され狭そうに見えた。

半世紀以上にわたり、関西中心のこの本を愛用した。何度も訪ねた所も有る。

すっかり色が変わり、本の内容も変化していた。

一万物流転の理一

でも皆、変化しながら保たれている事が素晴らしい。

以上



初春

1 班 玉尾 ひとみ

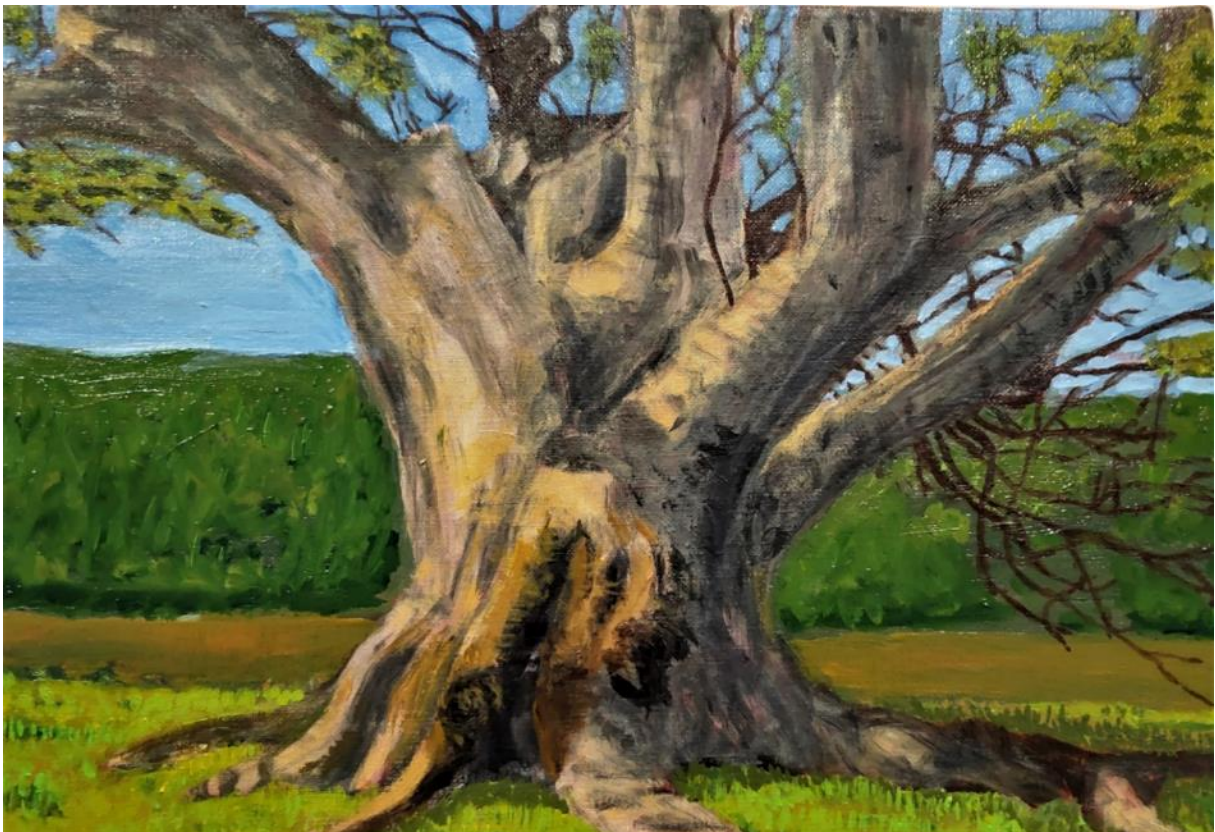
<http://sizentobunka.jp/kaiga/index4.html> クリックすると拡大します



野間の大ケヤキ

1 班 藤川 宗昭

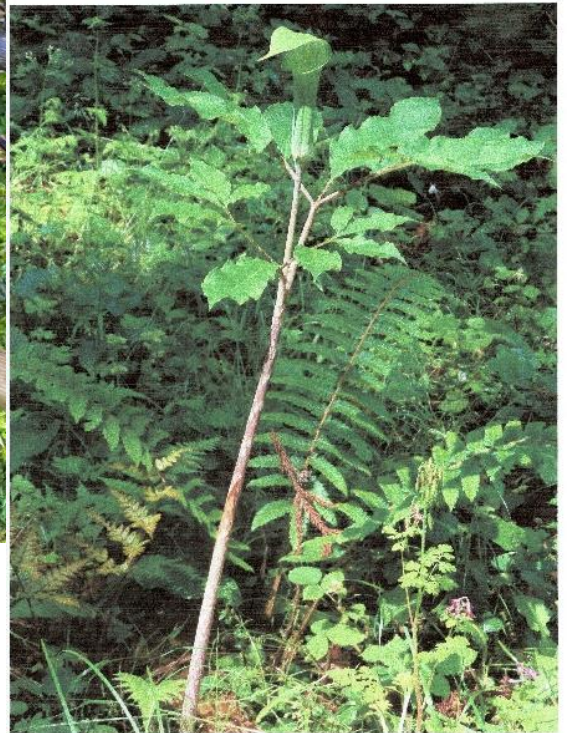
<http://sizentobunka.jp/kaiga/index5.html> クリックすると拡大します





ムロウテンナンショウ

1 班 今本 芙佐子



ムロウテンナンショウ 花

きれいな色をしていたので思わずシャッターを押しました。

ムロウテンナンショウの実が落ちた後です。

ムロウテンナンショウは4月終わりに仏炎苞が大きくなります。

色は淡緑色、まれに紫色を帯びることがあります。

付属体は先端がやや膨らんで緑色です。小葉は7～17枚で鳥足状につきます。

果実は液果で熟すと橙色、種の落ちた後の花序軸は鮮やかな紫色。



ツル植物の女王 フジ

4班 遊上 眞一



凄い 枝垂れ！！  
丹波市白毫寺の九尺藤。観光名所です



凄く 大きい！！  
奈良公園の中央に ドッシリと鎮座



凄い 成長戦略！！  
ツルの切断面を見ると 形成層を多層に  
して、導管を増やしている (箕面六個山)



凄く 長い！！  
何処まで伸びて行くのか？ 二股のツル  
(武庫川溪谷)



凄く きれい！！  
見事に巻かれていますね (箕面公園)



凄い パワー！！  
巻き付いた鉄柱を 引っ張り、倒しています  
(武田尾)



俳句

年ごとに字の乱れゆく初硯

対岸の仲間目指して鴨進む

冬夕焼け河川に響く管楽器



川柳



CO2 ちゃちな話と爆破され

ロシアにはごまめの歯ざしり聞こえまい

大砲にペンの力が届かない



今期最終号も皆様のお陰をもちまして発行することが出来ました。ありがとうございます。来期も引き続きご協力のほどよろしく願いいたします。

広報委員会